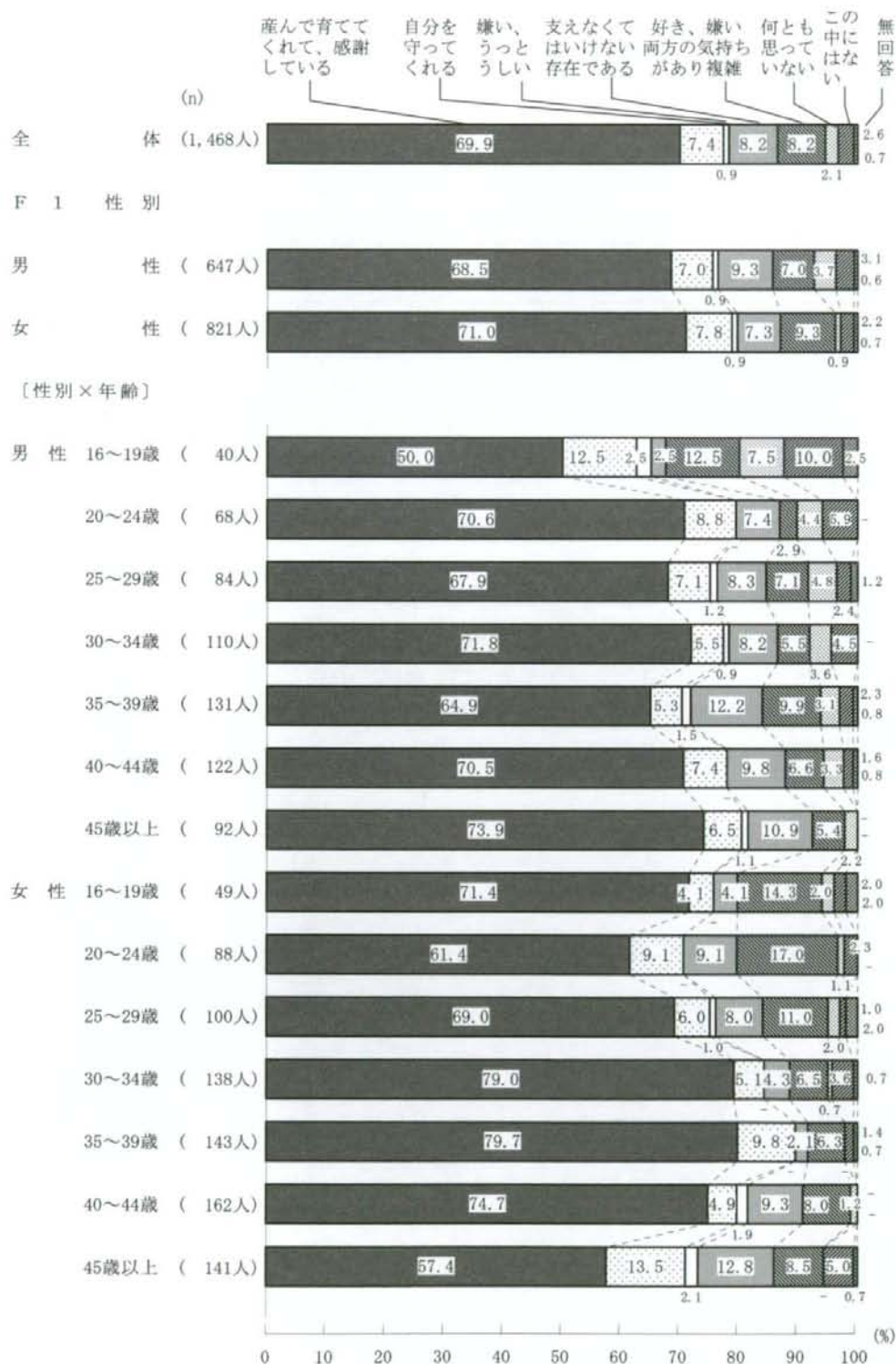


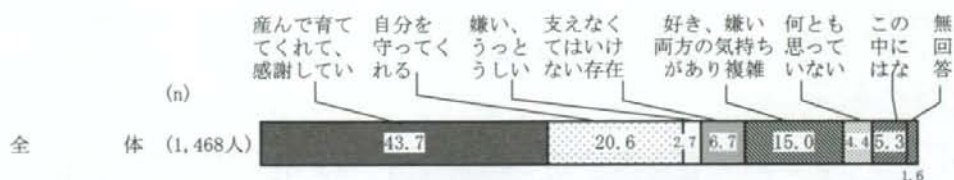
図1-7-1 母親に対する気持ち (性別、性・年齢別)



8 父親に対する気持ち

問5 あなたは親をどのように思っていますか。母親と父親について、それぞれ最も近いものを選んでください。

(2) 父親に対して (○は1つ)

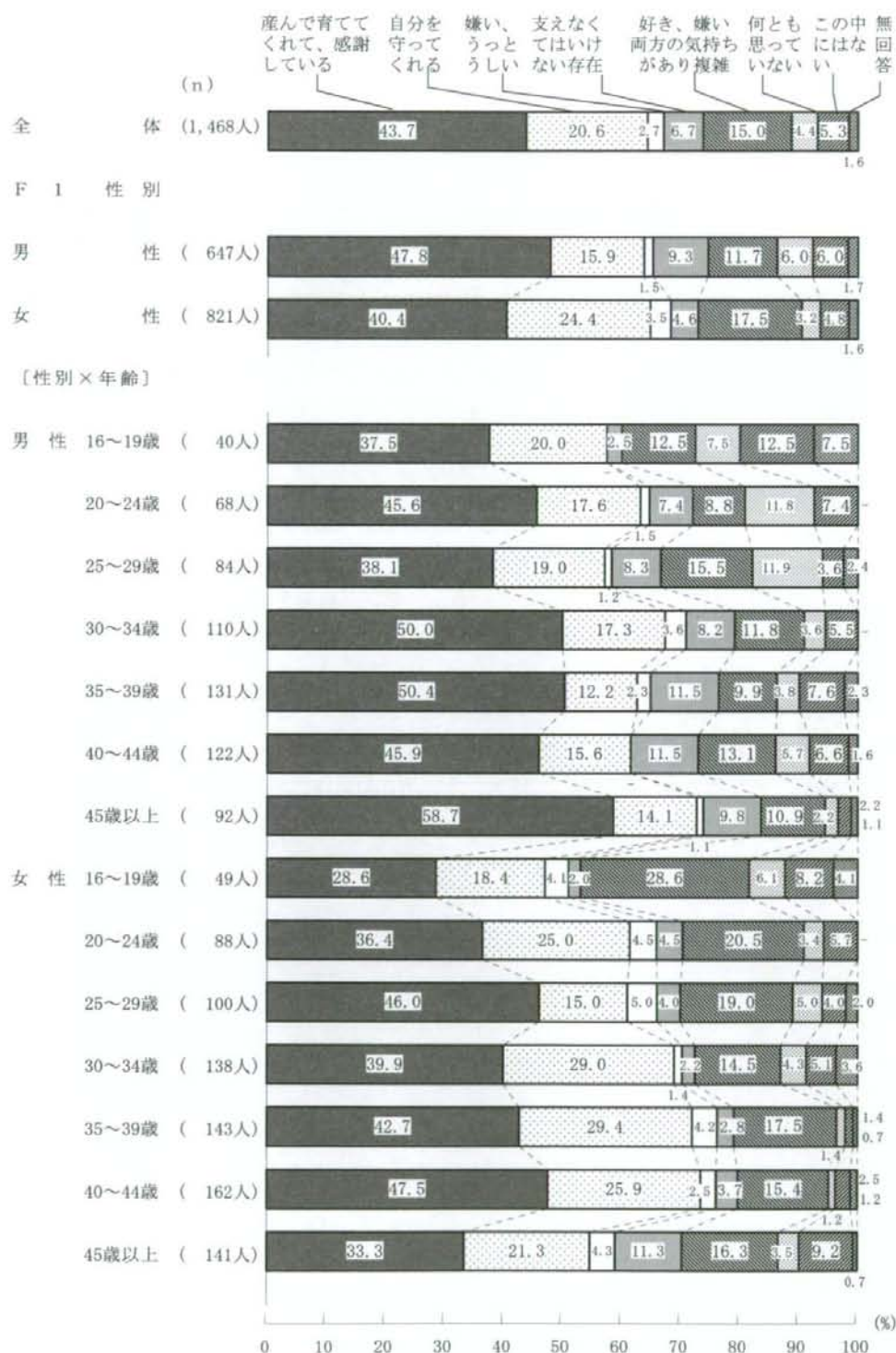


父親に対する気持ちについては、「産んでくれて、育ててくれて、感謝している」と答えた者が43.7%で最も多く、次いで、「自分を守ってくれる」と答えた者が20.6%、「好き、嫌い両方の気持ちがあり複雑」と答えた者が15.0%となっている。「支えなくてはいけない存在である」(6.7%)、「何とも思っていない」(4.4%)、「嫌い、うっとうしい」(2.7%)、「この中にはない」(5.3%)はわずかである。

性別にみると(図1-8-1)、「産んでくれて、育ててくれて、感謝している」と答えた者は女性(40.4%)より男性(47.8%)で多くなっている。一方、「自分を守ってくれる」と「好き、嫌い両方の気持ちがあり複雑」と答えた者は男性(順に15.9%、11.7%)より女性(順に24.4%、17.5%)で多くなっている。

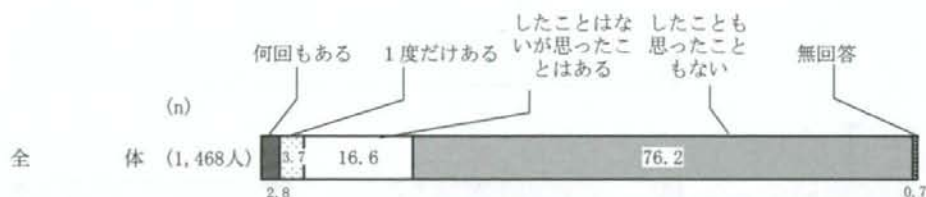
性・年齢別にみると(図1-8-1)、「産んでくれて、育ててくれて、感謝している」という者は男性の45歳以上(58.7%)では約6割を占めている。「自分を守ってくれる」という者は女性の30歳代の年齢層で約3割となっている。「好き、嫌い両方の気持ちがあり複雑」と答えた者は該当数は少ないが女性の16~19歳(28.6%)が多い。「支えなくてはいけない存在である」と答えた者は男性の30歳代の年齢層と女性の45歳以上で、それぞれ多くなっている。

図1-8-1 父親に対する気持ち (性別、性・年齢別)



9 自傷行為の経験

問6 あなたは、これまでに自傷行為（自分で自分の体を傷つける、たとえばカミソリで手首に傷をつけるなど）をしたことがありますか。（○は1つ）

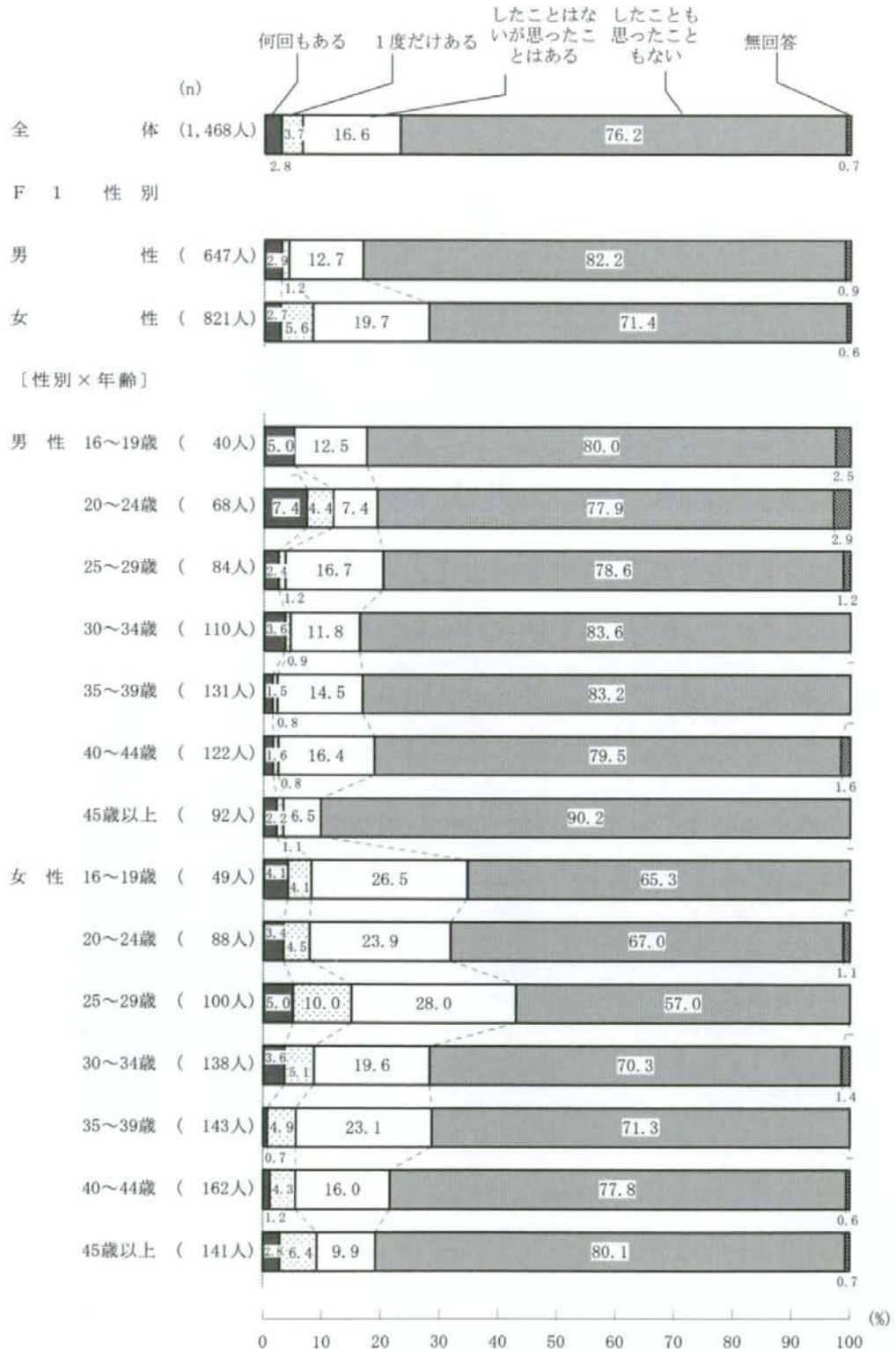


これまでに自傷行為（リストカットなど）をしたことがあるかを聞いたところ、「何回もある」という者は2.8%、「1度だけある」という者が3.7%、「したことはないが、しようと思ったことはある」という者が16.6%となっている。一方、「したことはない、しようと思ったこともない」と答えた者は76.2%である。

性別にみると（図1-5-1）、自傷行為（リストカットなど）を「1度だけある」と「したことはないが、しようと思ったことはある」という者はいずれも男性（順に1.2%、12.7%）より女性（順に5.6%、19.7%）で多くなっている。

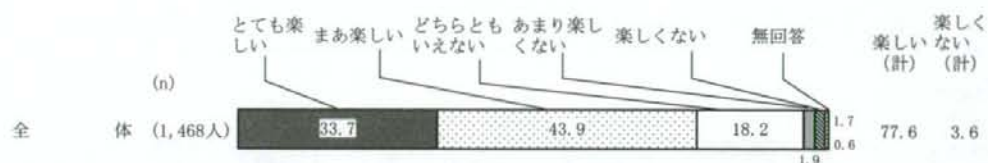
性・年齢別にみると（図1-5-1）、「1度だけある」という者は女性の25～29歳（10.0%）が多い。「したことはないが、しようと思ったことはある」という者は女性の16～39歳の年齢層で多くなっているが、特に女性の25～29歳（28.0%）では約3割を占めている。一方、「したことはない、しようと思ったこともない」という者は男性の30歳代と45歳以上、女性の45歳以上で8割を超えているが、特に、男性の45歳以上（90.2%）では9割を占めている。

図1-9-1 自傷行為の経験 (性別、性・年齢別)



10 子育てに対する意識

問7 あなたは、子育てを楽しい（楽しかった）と思いますか。これまでに、子育ての経験がない方も、イメージとしてお答えください。（○は1つ）

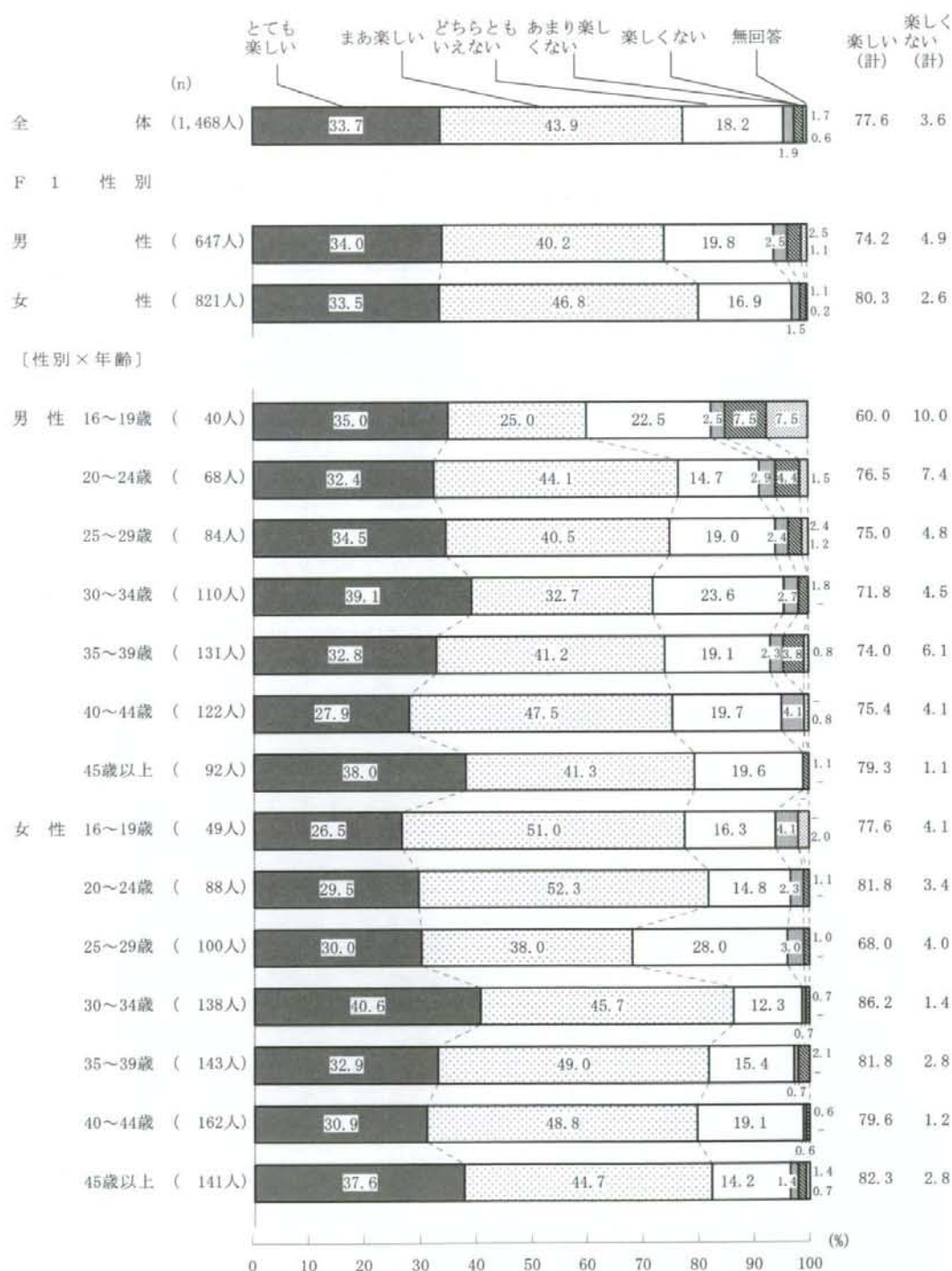


子育てを楽しい（楽しかった）と思うかについては、「とても楽しい（楽しかった）」という者は33.7%で、「まあ楽しい（楽しかった）」（43.9%）という者を合わせると、4人に3人が『楽しい』（77.6%）と答えている。「どちらともいえない」という者は18.2%である。一方、「あまり楽しくない（楽しくなかった）」（1.9%）と「楽しくない（楽しくなかった）」（1.7%）はわずかである。

性別にみると（図1-10-1）、「とても楽しい（楽しかった）」と「まあ楽しい（楽しかった）」を合わせた『楽しい』は男性（74.2%）より女性（80.3%）で多く、女性の8割が子育ては『楽しい』と答えている。

性・年齢別にみると（図1-10-1）、『楽しい』という者は女性の30～34歳（86.2%）で、「どちらともいえない」という者は女性の25～29歳（28.0%）で、それぞれ多くなっている。

図1-10-1 子育てに対する意識（性別、性・年齢別）



1 1 性に関する事柄を知るべき時期

問8 性に関する事柄について、あなたは一般的に、何歳くらいの時に知るべきだと思いますか。a～pのそれぞれについてお答えください。(○はそれぞれ1ずつ)

個人に知る必要
よって要はない
無回答

3～5歳 6～9歳 10～12歳 13～15歳 16～18歳 19歳以上 異なる

(n=1,468)



性に関する事柄を16項目あげ、それぞれについて一般的には何歳くらいの時に知るべきだと思うかを聞いた。

“二次性徴(発毛・声変わり・乳房のふくらみ)、月経、射精などの身体のしくみ”については、小学校高学年にあたる「10～12歳」(67.0%)くらいの時に知るべきだという者が3人に2人を占めている。“男女の心と身体の違い”と“受精、妊娠、出産、誕生のしくみ”も「10～12歳」(男女の違い46.4%、しくみ47.1%)に知るべきだという者が4割台後半で最も多い。“男女の心と身体の違い”では小学校低学年にあたる「6～9歳」(28.3%)くらいの時に知るべきだという者が続き、未就学期の「3～5歳」に知るべきという者も7.4%いる。一方、“受精、妊娠、出産、誕生のしくみ”は、「10～12歳」に知るべきという者に続いて、中学生にあたる「13～15歳」(38.3%)に知るべきだという者が多くなっている。

ほかに「13～15歳」に知るべきであるという者が多いのは、“避妊法”(53.9%)、“エイズとその予防”(52.7%)、“エイズ以外の性感染症とその予防”(52.3%)、“コンドームの使い方”(51.0%)、“人工妊娠中絶”(49.8%)などで、5割前後の者が中学生の時期に知るべきであると考えている。“セックス(性交渉)”も約5割の者が「13～15歳」(47.9%)に知るべきとしているが、より早い「10～12歳」(24.6%)くらいに知るべきという者も4人に1人いる。“性的被害(レイプや性暴力など)の対処法”、“多様な性のあり方(同性愛、性的指向、性同一性障害等)”も「13～15歳」(性的被害44.9%、多様な性39.2%)に知るべきであるという者が最も多い。また、“避妊法”、“エイズとその予防”、“エイズ以外の性感染症とその予防”、“性的被害(レイプや性暴力など)の対処法”は、より早い「10～12歳」(避妊法21.9%、エイズ22.3%、エイズ以外20.9%、性的被害19.6%)くらいの時に知るべきだという者が2割前後いる。

“人と人とのコミュニケーション(関わり方)”については、未就学期の「3～5歳」(14.6%)に知るべきだという人が6人に1人おり、小学校低学年にあたる「6～9歳」(21.7%)という者も5人に1人で、他の項目に比べ早い時期に知るべきだと考える者が多くなっている。“男女間の平等や助け合い”も“人と人とのコミュニケーション(関わり方)”に次いで「3～5歳」(4.4%)、「6～9歳」(14.2%)に知るべきと考える者が多い。

“結婚”と“離婚”はいずれも中学生にあたる「13～15歳」が最も多く2割台後半、次いで「10～12歳」と「16～18歳」の層がそれぞれほぼ同率の2割強で続いているが、知るべきと思う年齢が分散している。

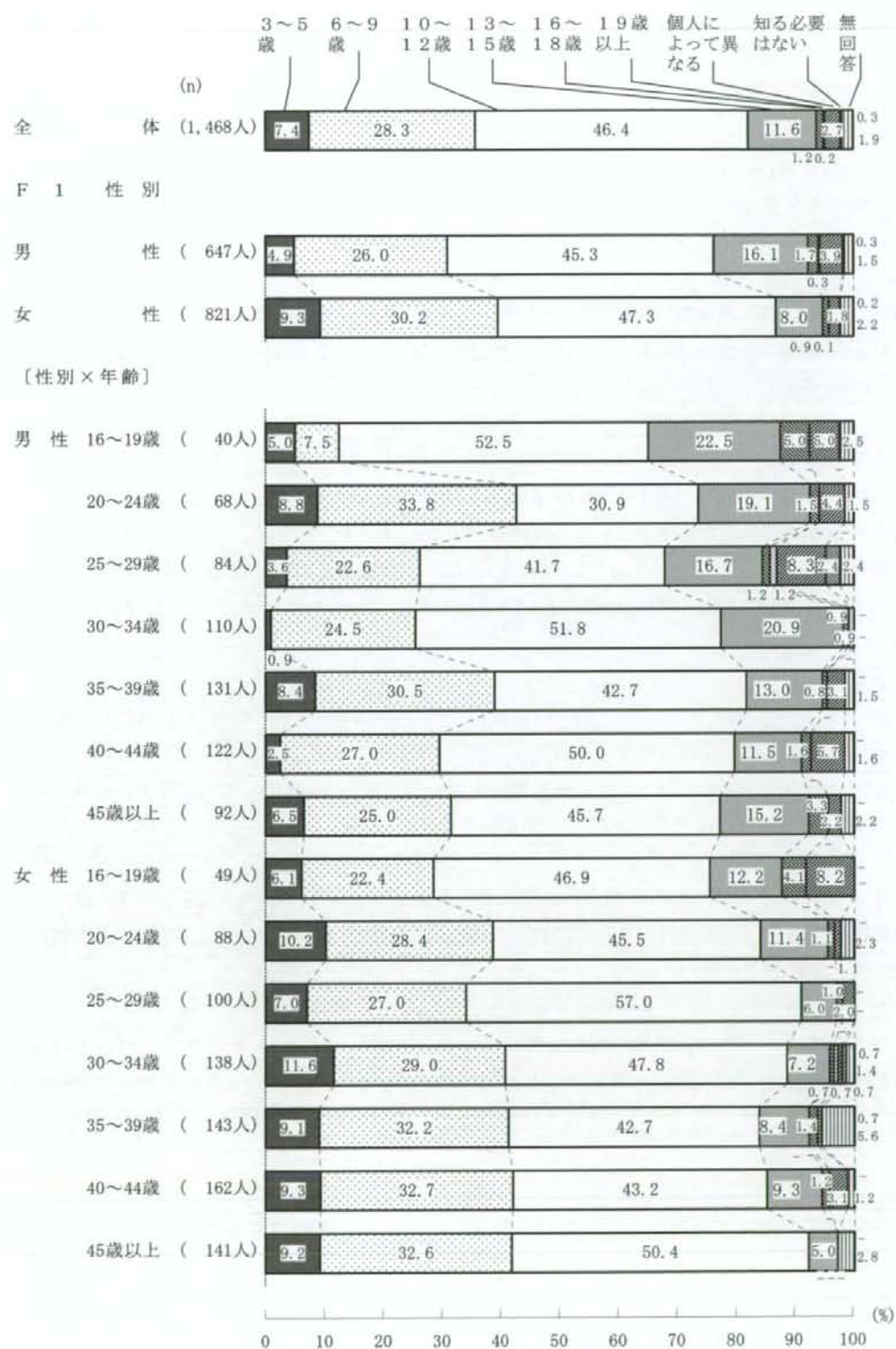
“性に関する倫理や道徳”は「13～15歳」(41.0%)が4割、次いで「10～12歳」(30.9%)が3割と多い。

それぞれの項目について性別と性・年齢別にみていく。

まず、“男女の心と身体の違い”については(図1-11-1)、男女とも小学校高学年にあたる「10～12歳」(男性45.3%、女性47.3%)に知るべきだという者が4割台後半で最も多く、次いで小学校低学年にあたる「6～9歳」(同26.0%、30.2%)となっているが、男性より女性の方が低年齢で知るべきであると考えられる者が多くなっている。

性・年齢別にみると(図1-11-1)、男性の20～24歳以外のいずれの性・年齢層でも「10～12歳」に知るべきであるという者が最も多いが、男性の35～39歳と女性の30歳以上の年齢層では「6～9歳」で知るべきだと考える者が3割前後を占めている。

図1-11-1 性に関する事柄を知るべき時期-“男女の心と身体の違い”(性別、性・年齢別)



“二次性徴、月経、射精などの身体のしくみ”を知る時期を性別にみると（図1-11-2）、男女とも小学校高学年にあたる「10～12歳」（男性59.4%、女性73.0%）には知るべきだという者が最も多い。特に女性では7割以上を占めており、男性を約14ポイント上回っている。次いで男性では中学生にあたる「13～15歳」（22.9%）が、女性では小学校低学年にあたる「6～9歳」（14.1%）が続いており、男性より女性の方が低年齢で知るべきだと考える者が多い。

性・年齢別にみても（図1-11-2）、いずれの性・年齢層でも「10～12歳」が最も多いが、男性の24歳以下と30歳代の年齢層では中学生にあたる「13～15歳」で知るべきだという者が統計的にみて他の性・年齢層より多い。

“受精、妊娠、出産、誕生のしくみ”を知る時期について性別でみると（図1-11-3）、男女とも最も多い「10～12歳」は女性（49.9%）が男性（43.4%）よりやや多くなっている。

また、性・年齢別にみると（図1-11-3）、女性の45歳以上で「10～12歳」に知るべきだという者が57.4%と多い。

“セックス（性交渉）”については、性別でみると「13～15歳」（男性44.2%、女性50.8%）は女性で、「16～18歳」（男性16.4%、女性10.2%）は男性でやや多くなっている。15歳以下で知るべきだと考える者は男性より女性で多くなっている（図1-11-4）。

性・年齢別にみると（図1-11-4）、「10～12歳」に知るべきだという者は男性の30～34歳（33.6%）で、「13～15歳」に知るべきだという者は女性の30～34歳（58.7%）で、他の性・年齢層より多くなっている。

“避妊法”について性別でみると、「13～15歳」（男性50.2%、女性56.8%）は女性でやや多くなっている。（図1-11-5）。

性・年齢別にみると（図1-11-5）、該当数は少ないが男性の45歳以上の年齢層で、高校にあたる「16～18歳」（27.2%）に知るべきだという者が多くなっている。

“人工妊娠中絶”について知る時期は、性別による大きな差はみられない。（図1-11-6）。

性・年齢別にみると（図1-11-6）、「16～18歳」は男性の45歳以上（32.6%）の3割強が支持し、他の性・年齢層より多い。

“エイズとその予防”について知る時期を性別にみると（図1-11-7）、大きな差はみられない。性・年齢別にみると（図1-11-7）、「10～12歳」に知るべきだという者が女性の25～29歳（31.0%）で、「16～18歳」に知るべきだという者が男性の45歳以上（31.5%）で、他の性・年齢層より多くなっている。

“エイズ以外の性感染症とその予防”を知る時期についても、性別による大きな差はみられない（図1-11-8）。

性・年齢別にみると（図1-11-8）、「16～18歳」に知るべきだという者が男性の45歳以上（32.6%）で、他の性・年齢層より多くなっている。

図1-11-2 性に関する事柄を知るべき時期—“二次性徴(発毛・声変わり・乳房のふくらみ)、
月経、射精などの身体のしくみ”(性別、性・年齢別)

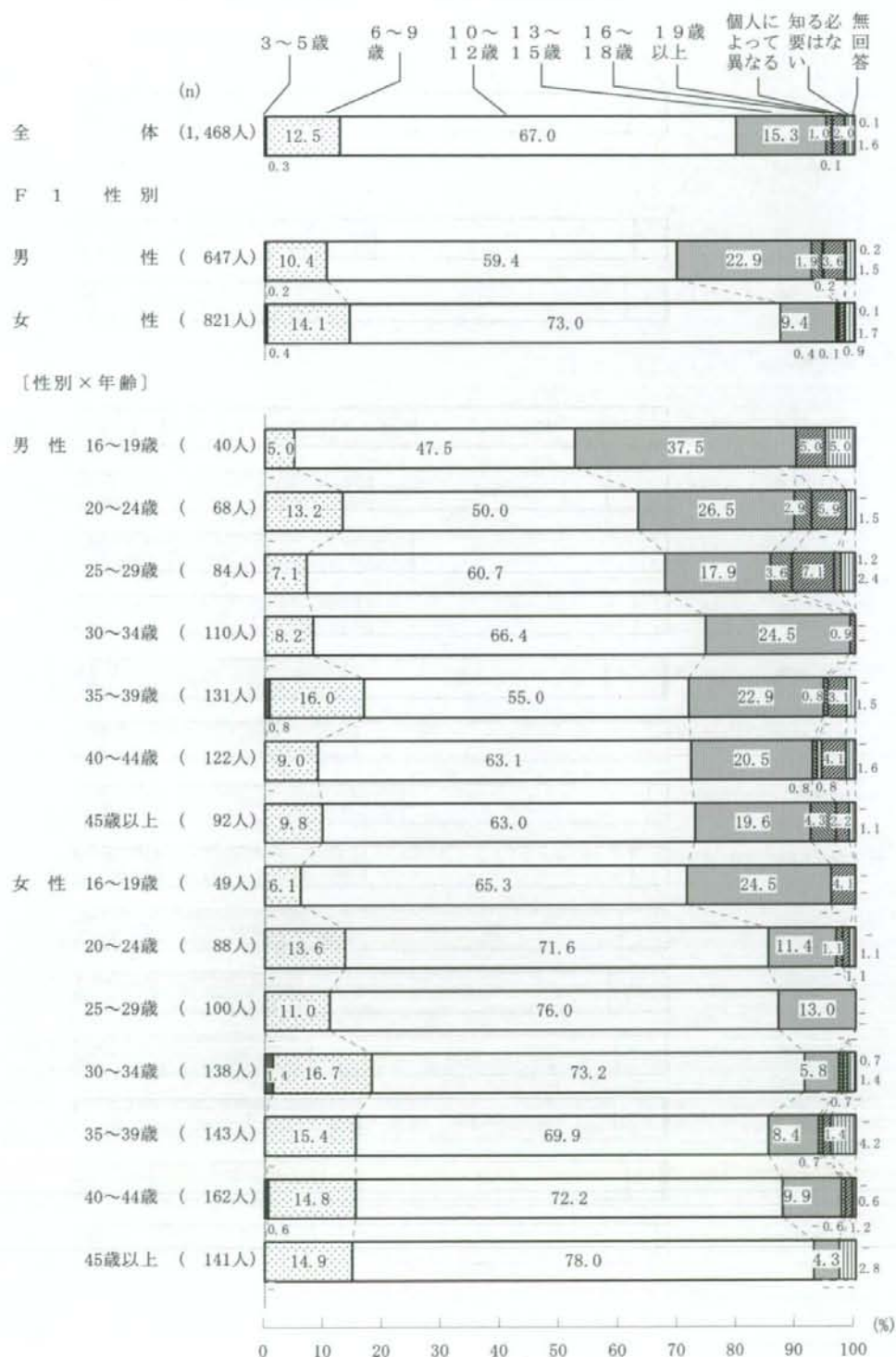


図1-11-3 性に関する事柄を知るべき時期—“受精、妊娠、出産、誕生のしくみ”

(性別、性・年齢別)

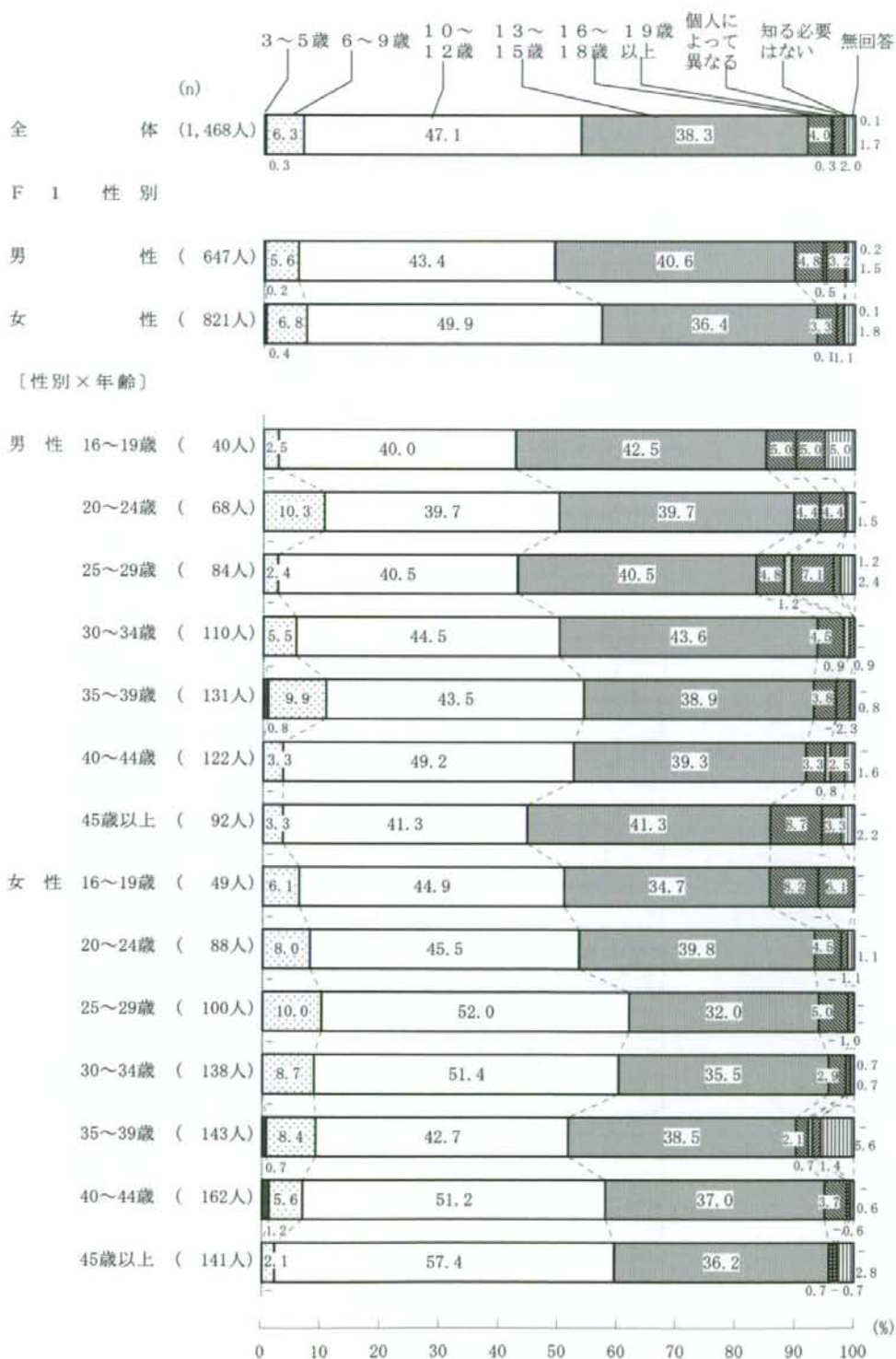


図1-11-4 性に関する事柄を知るべき時期-“セックス(性交渉)”

(性別・性・年齢別)

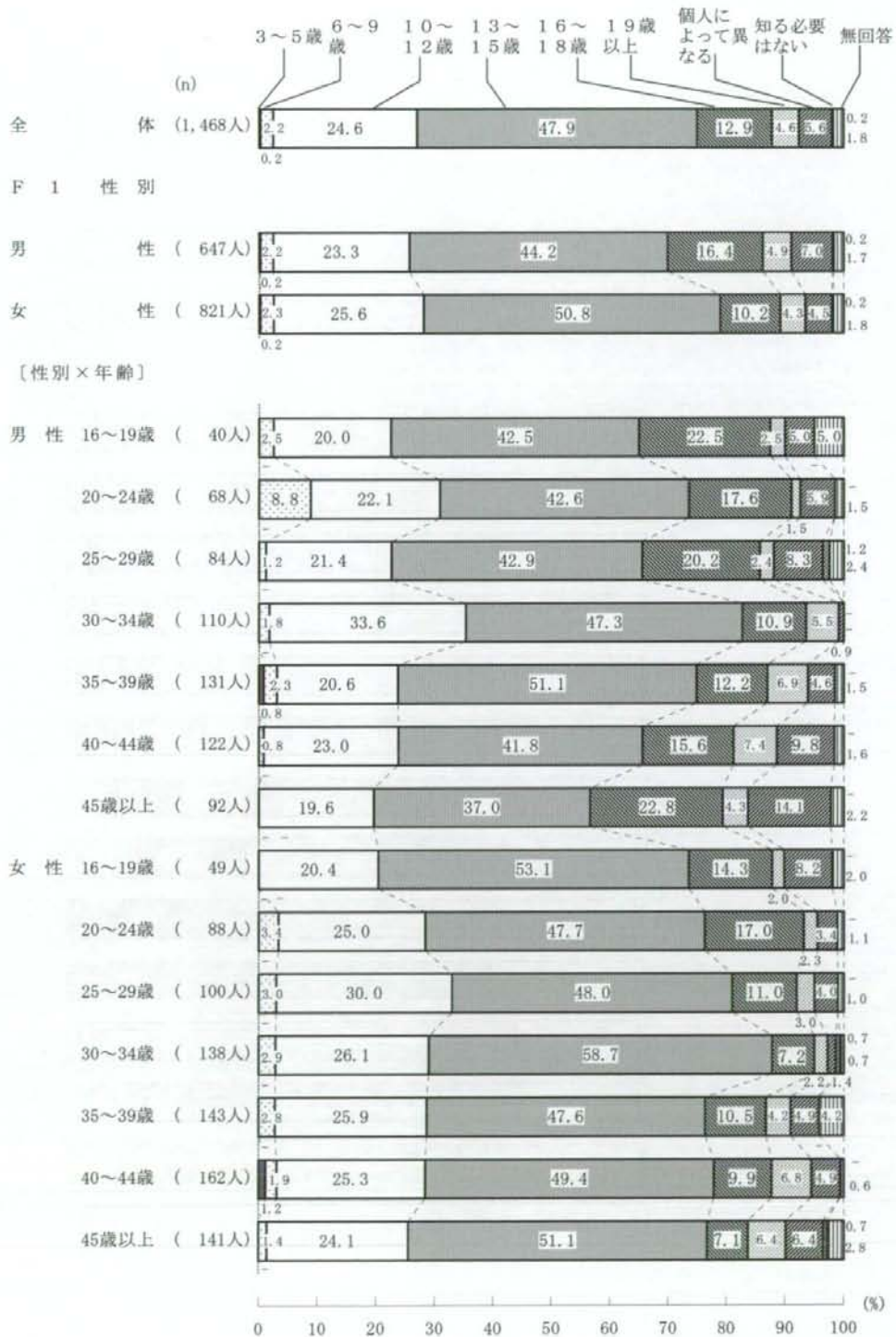


図1-11-5 性に関する事柄を知るべき時期—“避妊法”

(性別、性・年齢別)

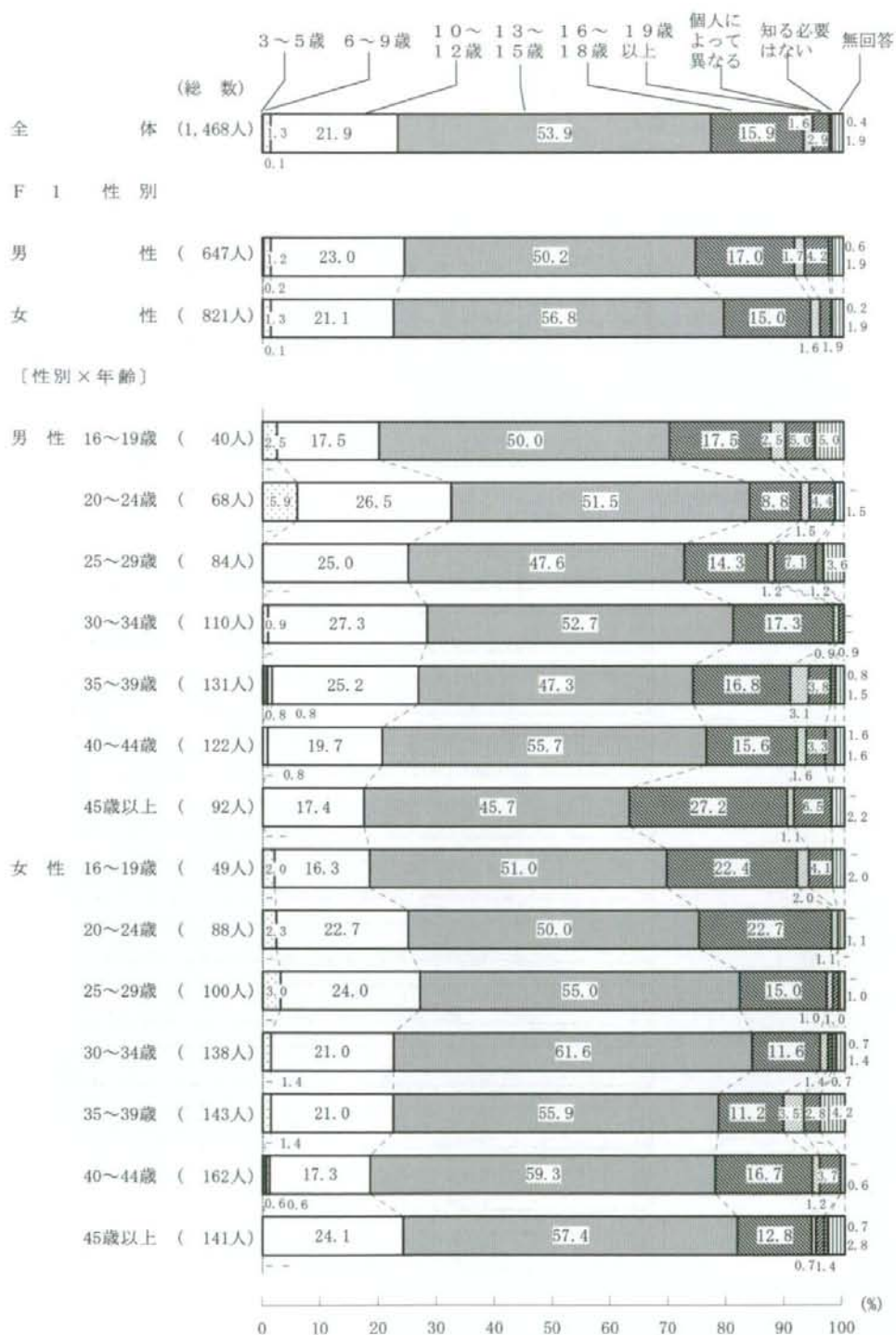


図1-11-6 性に関する事柄を知るべき時期-“人工妊娠中絶法”

(性別、性・年齢別)

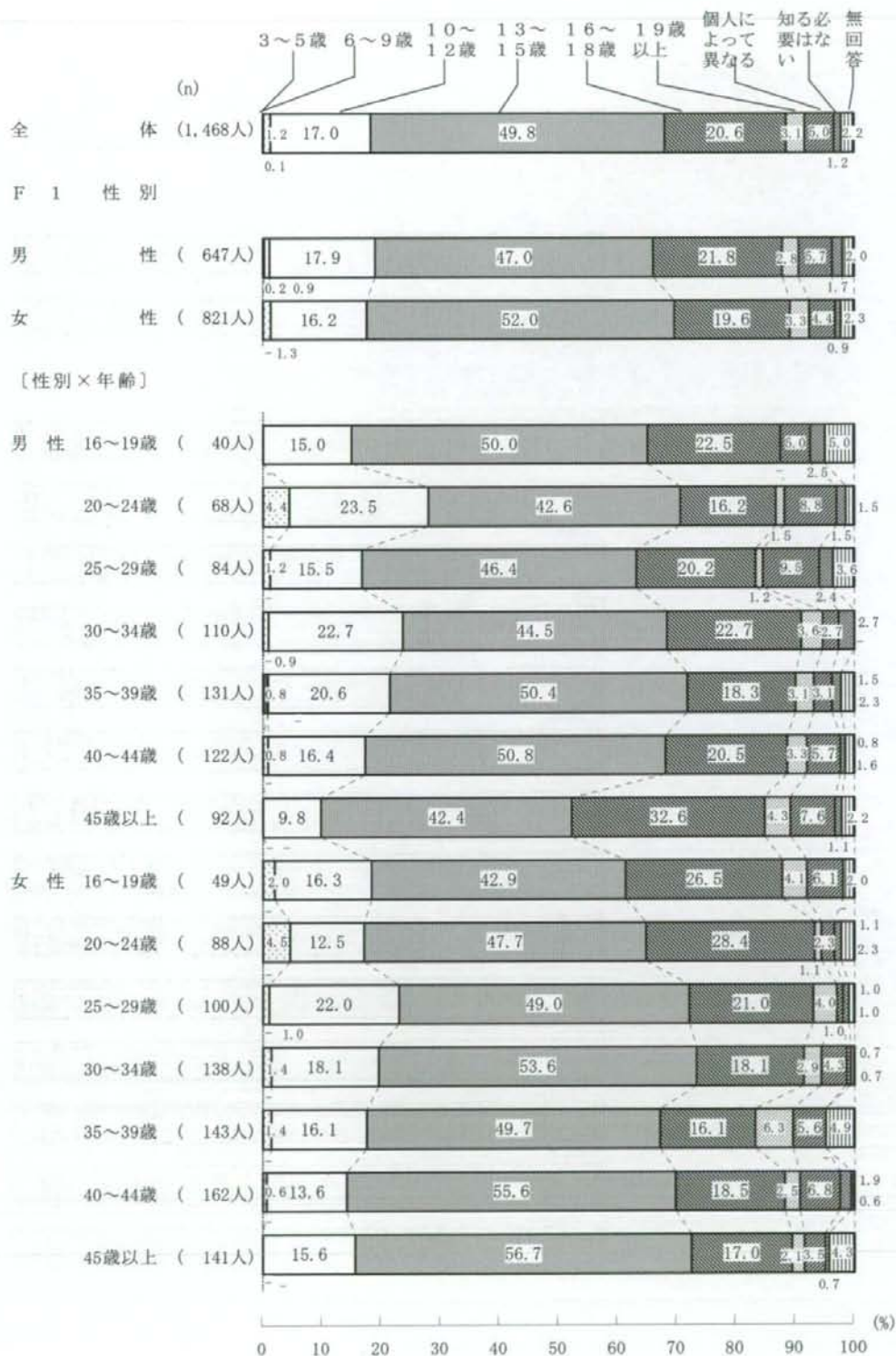


図1-11-7 性に関する事柄を知るべき時期—“エイズとその予防”

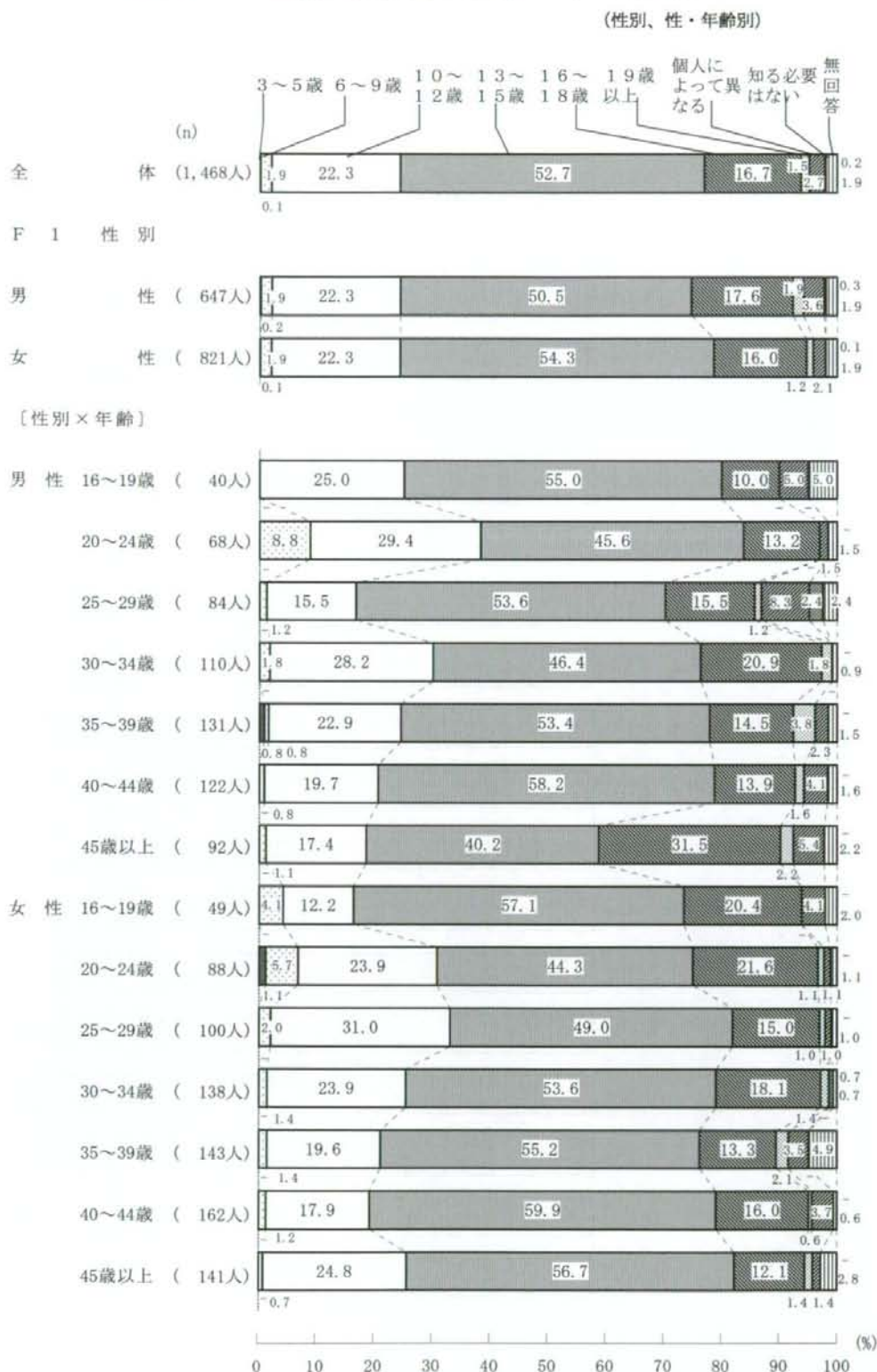
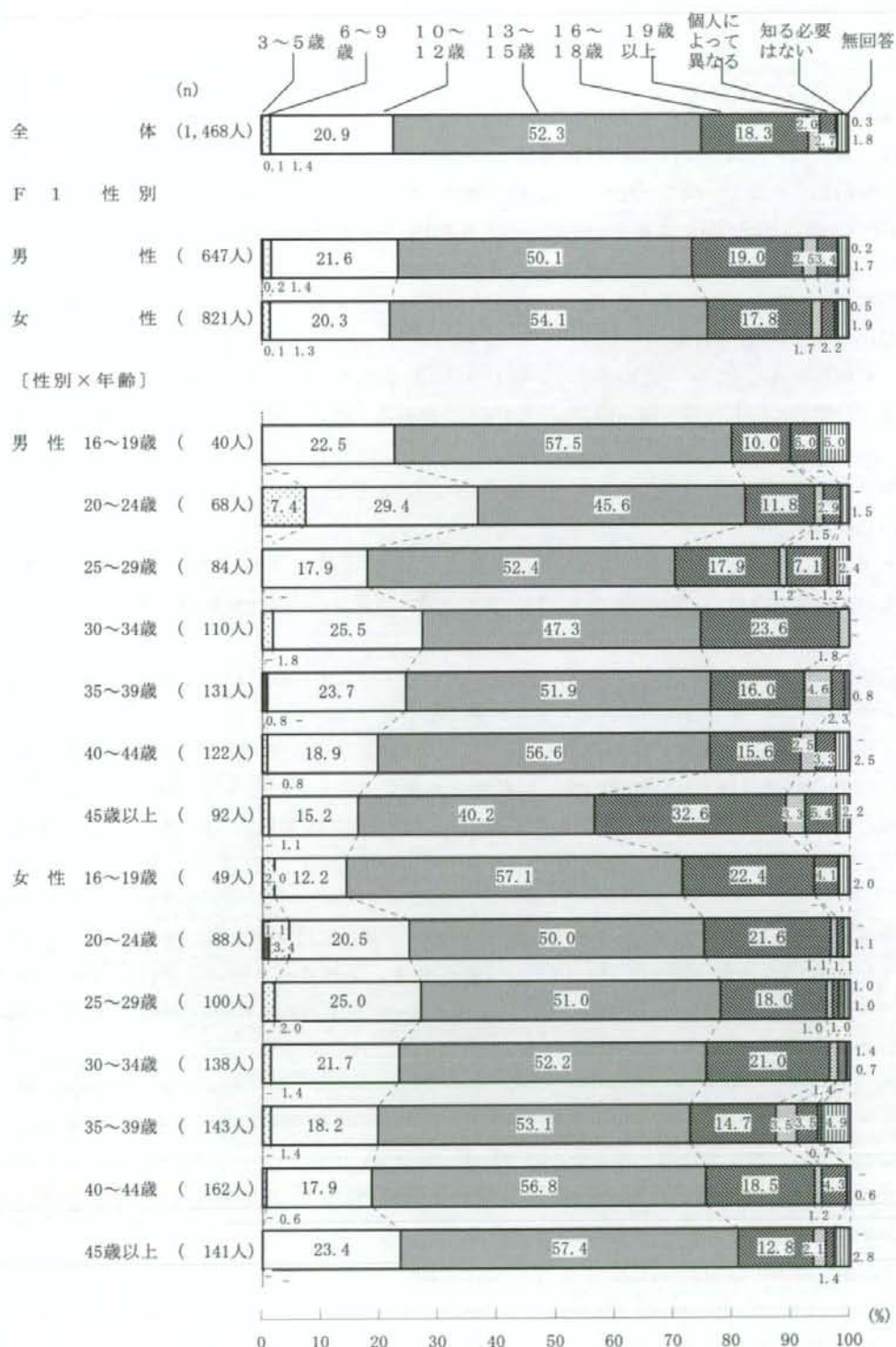


図1-11-8 性に関する事柄を知るべき時期—“エイズ以外の性感染症とその予防”

(性別、性・年齢別)



“コンドームの使い方”を知るべき時期についても、性別による差はみられない（図1-11-9）。

性・年齢別にみると（図1-11-9）、ほとんどの性・年齢層で中学生にあたる「13～15歳」が最も多いが、男性の45歳以上では高校生にあたる「16～18歳」（39.1%）に知るべきだという者が多くなっている。

“多様な性のあり方（同性愛、性的指向、性同一性障害等）”について知るべき時期を性別にみても（図1-11-10）、大きな差はみられない。

性・年齢別にみると（図1-11-10）、該当数は少ないが男性の20～24歳では小学校高学年にあたる「10～12歳」（26.5%）に知るべきだと考える者が、他の性・年齢層より多くなっている。

“性的被害（レイプや性暴力など）の対処法”を知るべき時期についても、性別には大きな差がみられない（図1-11-11）。

性・年齢別にみると、すべての性・年齢層で中学生にあたる「13～15歳」が最も多いが、男性の45歳以上では高校生にあたる「16～18歳」（34.8%）に知るべきだと考える者も3割を超えている。

“男女間の平等や助け合い”を知るべき時期を性別にみると（図1-11-12）、性別には大きな差がみられない。

性・年齢別にみると（図1-11-12）、該当数は少ないが男性の20～24歳と女性の16～19歳の年齢層では、「6～9歳」（順に25.0%、24.5%）と考える者が他の性・年齢層より多くなっている。

“結婚”について性別にみると（図1-11-13）、中学生にあたる「13～15歳」に知るべきという者は女性（25.7%）より男性（30.6%）でやや多くなっている。

性・年齢別にみると（図1-11-13）、小学校低学年にあたる「6～9歳」に知るべきという者は女性の30～34歳（13.8%）で他の性・年齢層より多く、統計上の差がみられる。また、「13～15歳」は男性の30～34歳（36.4%）で、「19歳以上」は男性の45歳以上（13.0%）で知るべきだと考える者が多い。

“離婚”を知る時期についてみると（図1-11-14）、性別には大きな差がみられない。

性・年齢別にみると（図1-11-14）、「6～9歳」に知るべきという者は女性の30～34歳（14.5%）で、中学生にあたる「13～15歳」で知るべきだとする者が男性の30～34歳（34.5%）と女性の25～29歳（35.0%）で、それぞれ多くなっている。

“人と人とのコミュニケーション（関わり方）”を知るべき時期を性別にみると（図1-11-15）、未就学の「3～5歳」で知るべきとする者は男性（11.1%）より女性（17.4%）で多く、小学校高学年にあたる「10～12歳」に知るべきだと考える者は女性（29.2%）より男性（34.2%）が多い。女性の方が早い時期に知るべきだと考える者が多くなっている。

性・年齢別にみると（図1-11-15）、小学校入学前の「3～5歳」で知るべきとする者は女性の30～34歳（21.7%）と40～44歳（21.0%）の年齢層で2割を超えている。一方、男性の45歳以上では高校生にあたる「13～15歳」（26.1%）でよいとする者が4人に1人いる。

図1-11-9 性に関する事柄を知るべき時期—“コンドームの使い方”

(性別、性・年齢別)

